

令和3年度 第2回練馬区立美術館運営協議会次第

日時：令和4年3月23日（水）午後2時

場所：サンライフ練馬研修室

（審議事項）

- 1 令和4年度事業計画（案）
 - （1）収支予算
 - （2）展覧会事業
 - （3）教育普及事業

（報告事項）

- 2 令和3年度事業報告（中間報告）
 - （1）展覧会事業
 - （2）美術作品の収集事業（再掲）
 - （3）広報活動と反響
 - （4）新型コロナウイルス感染症対策

- 3 その他

令和3年度

第2回 練馬区立美術館運営協議会

練馬区立美術館

(令和4年3月23日)

令和3年度第2回練馬区立美術館運営協議会資料 目次

練馬区立美術館運営協議会委員名簿	1
練馬区立美術館運営協議会条例	3
1 令和4年度 事業計画（案）	
(1) 収支予算	5
(2) 展覧会事業	6
① 「時代を映す絵画たちーコレクションにみる戦後美術の歩みー」展	7
② 「生誕100年 朝倉摂」展	8
③ 「日本の中のエドゥアール・マネ」展（仮称）	9
④ 「冬のコレクション」展（仮称）	10
⑤ 「吉野石膏コレクション 絵画と貴重書の世界」展（仮称）	11
(3) 教育普及事業	12
2 令和3年度事業報告（中間報告）	
(1) 展覧会事業	14
(2) 美術作品の収集事業（再掲）	16
(3) 広報活動と反響	17
(4) 新型コロナウイルス感染症対策	22

第 18 期 練馬区立美術館運営協議会委員名簿

	氏 名	役 職
学識経験者	タカハシ コウジ 高橋 幸次	国際ファッション専門職大学教授 元日本大学芸術学部 教授
	イズイ ヒデカズ 伊豆井 秀一	元埼玉県立近代美術館 主席学芸主幹
	サトウ ヤスヒロ 佐藤 康宏	美術史家
	シマダ ノリオ 島田 紀夫	実践女子大学名誉教授
	ナイトウ マサト 内藤 正人	慶応義塾大学教授
	マブチ アキコ 馬渕 明子	日本女子大学名誉教授
練馬区議会 議員	コイズミ ジュンジ 小泉 純二	区議会議員
	しもだ レイ しもだ 玲	区議会議員
	サワムラ シンタロウ 沢村 信太郎	区議会議員
	ツチャ としひろ 土屋 としひろ	区議会議員
公募区民	スドウ アサヨ 須藤 麻世	公募区民
	サイトウ ノリコ 齋藤 宜子	公募区民
	ハタ チエコ 畑 智江子	公募区民
美術団体 関係者	ヨシダ ミノウ 吉田 巳蔵	練馬・文化の会代表
	シマダ コウイチロウ 島田 紘一呂	練馬区美術家協会会長
学校教育 関係者	エガワ サトシ 江川 誠志	区立中学校校長
	トヨダ カツシ 豊田 克史	区立小学校校長

練馬区立美術館運営協議会条例

昭和60年10月8日

条例第45号

(設置)

第1条 練馬区立美術館(以下「美術館」という。)の運営方針および事業計画を協議するため、練馬区立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 協議会は、区長の諮問に応じてつぎに掲げる事項について審議し、答申する。

- (1) 美術館の運営方針に関すること。
- (2) 美術館の事業計画に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事項

2 協議会は、前項各号に掲げる事項について、区長に意見を述べることができる。

(定数)

第3条 協議会は、委員19人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、つぎの各号に定めるところにより、区長が委嘱する。

- (1) 学識経験者 8人以内
- (2) 練馬区議会議員 4人以内
- (3) 区民 3人以内
- (4) 美術団体関係者 2人以内
- (5) 学校教育関係者 2人以内

2 前項第3号に規定する区民は、公募により選任するものとする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長および副会長)

第6条 協議会に会長および副会長を各1人置く。

2 会長および副会長は、委員が互選する。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議長は、会長が務める。

4 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くこ

とができる。

(部会)

第8条 協議会は、第2条第1項に規定する事項について調査検討を行うため、部会を置くことができる。

2 部会は、会長の指名する委員をもって組織する。

3 部会は、協議会の求めがあったときは、必要な事項を報告しなければならない。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、地域文化部において処理する。

(委任)

第10条 この条例の施行について必要な事項は、練馬区規則で定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

付 則 (平成23年12月条例第53号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

付 則 (平成26年12月条例第49号)

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

1 令和4年度 事業計画(案)

(1) 収支予算

① 指定管理者収支予算

(単位：千円)

経費種別	支出				収入			
		施設管理費	事業費	人件費		指定管理業務費	利用料金・物販等	その他
人件費	52,633	0	0	52,633	52,633	0	0	
美術館維持経費	75,650	75,650	0	0	75,650	74,442	1,208	
展覧会事業費	104,030	0	104,030	0	104,030	59,585	43,245	
教育普及事業費	2,098	0	2,098	0	2,098	2,009	89	
練馬区立美術館維持運営費 計	234,411	75,650	106,128	52,633	234,411	188,669	44,542	

② 区直接執行予算(美術館維持運営費・美術館再整備事業経費)

項目	支出額
美術館運営協議会委員報酬	447
資料収集委員会委員等謝礼	1,203
再整備基本設計等委託料	41,358
消耗品費	54
区執行額計	43,062

【参考】区直接執行予算(美術の森緑地維持管理費)

項目	支出額
光熱水費	150
修繕料	1,049
消耗品費	30
樹木せん定料	719
維持管理等委託料	2,927
維持補修費	267
区執行額計	5,142

(2) 展覧会事業

令和4年度 展覧会事業日程(案)

3階展示室			2階展示室		
会期	展覧会名	担当	会期	展覧会名	担当
4月10日 6月12日 <55日間>	【有料】 「時代を映す絵画たち」展 - コレクションにみる戦後美術の歩み -				毛利
6月26日 8月14日 <43日間>	【有料】 「生誕100年 朝倉撰」展				眞子
9月4日 11月3日 <52日間>	【有料】 「日本の中のエドゥアール・マネ」展(仮称)				小野
11月18日 11月27日 <9日間>	【無料】 第68回練馬区美術家協会展		11月18日 2月12日 <70日間>	【無料】 「冬のコレクション」展(仮称)	毛利
12月6日 12月22日 <15日間>	(一般貸出)				
1月4日 1月12日 <8日間>	(一般貸出)				
1月14日 1月18日 <4日間>	練馬区中学校生徒作品展				
1月21日 1月26日 <5日間>	練馬区小学校連合同工展				
1月28日 1月29日 <2日間>	練馬区小中学校連合同書きぞめ展				
2月4日 2月12日 <8日間>	【無料】 第54回練馬区民美術展				
2月26日 4月16日 <43日間>	【有料】 「吉野石膏コレクション 絵画と貴重書の世界」展(仮称)				

「時代を映す絵画たち - コレクションにみる戦後美術の歩み - 」展 開催要項

- 1 開催趣旨 1985年に開館した練馬区立美術館は当初より美術作品の収集に取り組み、作品数は現在約5,500点、寄託作品を含めれば約7,500点に上っています。この中でも絵画作品は、日本の戦後美術の流れを語るのに欠かせない作品を含む、重要なパートとなっています。そこで今回のコレクション展では、そうした所蔵品の中から、戦後まもなく描かれた作品から近年に制作されたものまで、約35名の作家による油彩画を中心とした約70点の作品を展示し、表現の流れを振り返ります。

こうしたコレクションは、各時代の世相や思想を様々なかたちで映すものです。またそれは、開館して37年を迎える当館の歴史そのものでもあります。様々な経緯で収蔵(購入・寄贈・寄託)されてきた作品たちは、収蔵庫から展示室に移り観客の視線を受けることによって、新たにその表情を輝かせるでしょう。見られることによって何度でも繰り返す、けれどもその場だけの唯一の時間、そうした出会いを演出いたします。

出品予定作家(50音順)

浅見貴子 / 荒川修作 / 池田龍雄 / 石原友明 / 上田薫 / 大小島真木 / 大沢昌助 / 岡本唐貴 / 小野木学 / オノサト・トシノブ / 北川民次 / 北代省三 / 工藤哲巳 / 久野和洋 / 小山穂太郎 / 近藤竜男 / 佐藤敬 / 嶋田しづ / 白髪一雄 / 諏訪直樹 / 高橋秀 / 高松次郎 / 高山良策 / 辰野登恵子 / 谷川晃一 / 鶴岡政男 / 中西夏之 / 中林忠良 / 中村宏 / 難波田龍起 / 野見山暁治 / 藤松博 / 村井正誠 / 山口薫 / 山口長男 / 山田正亮

- 2 会 期 令和4年4月10日(日)~6月12日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館(公益財団法人練馬区文化振興協会)
- 4 内 容 油彩画、版画など 約70点
- 5 図 録 リーフレットを制作
- 6 観 覧 料 800円
- 7 イベント スライドトーク、ワークショップ、鑑賞プログラムを開催
- 8 観覧者見込 11,000人(200人/日)
- 9 担 当 副館長 毛利義嗣

「生誕 100 年 朝倉撰」展 開催要項

- 1 開催趣旨

画家・舞台美術家として活躍した朝倉撰（1922－2014）の全貌に迫る、はじめての本格的な回顧展です。

彫刻家・朝倉文夫（1883－1964）の長女として東京・谷中に生まれた朝倉は、父の方針により独自の家庭教育を受けて育ちました。17歳のときから日本画家・伊東深木に学び、絵画の道を歩みはじめ、1940年代初頭には、モダンな人物像を洗練された色彩感覚で描き出し、若くしてその才能を認められていきます。

戦後は、創造美術を経て新制作協会日本画部に所属する中で、ピカソなど海外作家の探究にもとづいたキュビズム的な作風へと展開を見せました。また、日本が直面する社会的問題にも興味を広げ、佐藤忠良ら仲間の芸術家たちと地方の漁村や炭鉱を訪れ、労働者の生活取材した社会派の作品を次々に発表。1953年には《働く人》で上村松園賞を受賞しています。一方で、1950年代から本格的に取り組むようになった舞台美術は、朝倉の探究心をかき立てる新たなジャンルであり、1960年代後半から、しだいに絵画から舞台美術へと活動の比重を移すこととなりました。

生前、朝倉の意向もあり、日本画時代の作品が公開される機会は多くありませんでした。没後、アトリエに残された作品が各地の美術館に寄贈され、断片的だった活動をつなぐことが可能となりました。本展では、日本画だけでなく絵本の原画や挿絵の仕事も合わせ、朝倉の創作活動の全体像を紹介します。
- 2 会 期 令和4年6月26日(日)～8月14日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）、東京新聞
- 4 助 成 ポーラ美術振興財団
- 5 内 容 日本画、スケッチ、舞台美術資料、挿絵原画など 約140点
- 6 図 録 制作（青幻舎）
- 7 観 覧 料 1,000円
- 8 イベント 講演会、ギャラリートーク、ワークショップなどを開催
託児サービスを実施予定
- 9 観覧者見込 16,555人(385人／日)
- 10 担 当 学芸員 眞子みほ

「日本の中のエドゥアール・マネ」展（仮称） 開催要項

- 1 開催趣旨

19世紀フランスを代表する画家エドゥアール・マネ(1832 - 83)の日本における受容について考察する展覧会です。我が国における洋画黎明期の美術家や美術批評家たちはどのようにマネを解釈し、理解したのでしょうか。例えば、美術批評家で画家の石井柏亭は、《草上の小憩》(1904・明治37年/東京国立近代美術館)と題されたマネへのオマージュ作品を手掛けています。その他、山脇信徳、小磯良平、安井曾太郎、山本鼎、村山槐多などの作品にも、マネからの影響が見受けられます。また、医師で詩人、小説家、美術批評家の顔を持つ木下杢太郎はマネを理解することこそ、西洋近代絵画を受容する上で不可欠であると主張しました。しかしながら、これらの影響関係について断片的に指摘されることはあっても、マネ受容の全体像をまとまった形で示されたことはありません。

本展では、まず、西洋近代美術におけるマネの位置づけを確認した上で、明治から昭和初期までに見られる批評や作品を通して、日本における最初期のマネ受容について検討します。

そして、現代の日本におけるマネ受容についても考察します。森村泰昌や福田美蘭のマネ作品から着想を得た作品を通して、現代のマネ解釈を検討します。

洋画黎明期の日本におけるマネ受容から、現代の日本人アーティストのマネ解釈を踏まえ、日本におけるマネ像を探る展覧会です。
- 2 会 期 令和4年9月4日(日)～11月3日(木・祝)
- 3 主 催 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）
- 4 内 容 絵画、版画、資料など 約120点
- 5 図 録 制作
- 6 観 覧 料 1,000円
- 7 イベント 講演会、ギャラリートーク、ワークショップなどを開催
託児サービスを実施予定
- 8 観覧者見込 22,880人(440人/日)
- 9 担 当 学芸員 小野寛子

「冬のコレクション」展（仮称） 開催要項

- 1 開催趣旨 練馬区立美術館では、日本の近現代美術を中心とした作品の収集と保管に努めてきました。開館より 37 年にわたって、地域ゆかりの作家や展覧会等を通じて収集を行い、寄託作品を含めれば約 7,500 点に上り、特色あるコレクションを形成しています。これらの中からテーマを設定して作品を展示し、当館コレクションのユニークな一側面を紹介いたします。
- 2 会 期 令和 4 年 11 月 18 日（金）～令和 5 年 2 月 12 日（日）
- 3 主 催 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）
- 4 内 容 絵画、版画など
- 5 図 録 図録またはリーフレットを制作予定
- 6 観 覧 料 無料
- 7 イベント ワークショップ、鑑賞プログラムなどを開催
- 8 観覧者見込 16,450 人(235 人 / 日)
- 9 担 当 副館長 毛利義嗣

「吉野石膏コレクション 絵画と貴重書の世界」展（仮称） 開催要項

- 1 開催趣旨

石膏建築資材で知られる吉野石膏株式会社は1901年の創業以来、真に豊かな社会の構築を目指し、「物質的な豊かさ」と「精神的な豊かさ」の調和を求め、洋の東西を問わず様々な美術品の蒐集を続けてきました。更に2008年にはより幅広い芸術分野への貢献を志し、美術財団を設立しています。

本展ではその吉野石膏による選りすぐりのコレクションを紹介します。とりわけ、名品揃いの西洋絵画や日本絵画はよく知られていますが、アートライブラリーの充実を狙い蒐集された貴重書については、その全体像を俯瞰するはじめての機会となります。

我が国において、企業による美術コレクションは重要な位置づけを成してきました。その一角を代表する吉野石膏のコレクションから、名画と貴重書の世界を紹介します。
- 2 会 期 令和5年2月26日(日)～4月16日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）
- 4 企画協力 公益財団法人吉野石膏美術財団
- 5 内 容 油彩画、日本画、貴重書など 約130点
- 6 図 録 制作
- 7 観 覧 料 1,000円
- 8 イベント 講演会などを開催
- 9 観覧者見込 15,480人(360人/日)
- 10 担 当 学芸員 小野寛子 加藤陽介

(3)教育普及事業

令和4年度 教育普及事業計画(案)

令和4年2月12日現在

館内事業

) 展覧会関連 (各展覧会を楽しむ)

関連ワークショップ・講座

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	「時代を映す絵画たち」展	5月28日(土)	1	小学生以上	10名
2	「生誕100年 朝倉摂」展	7~8月	1	中学生以上	未定
3	「日本の中のエドゥアール・マネ」展(仮称)	未定	1	未定	未定
4	「冬のコレクション」展(仮称)	未定	1	未定	未定

ギャラリートーク・スライドトーク

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	「時代を映す絵画たち」展	5月14日(土)、6月4日(土)	2	自由参加 または抽選	
2	「生誕100年 朝倉摂」展	未定	1	自由参加 または抽選	
3	「日本の中のエドゥアール・マネ」展(仮称)	未定	1	自由参加 または抽選	

鑑賞プログラム

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	「時代を映す絵画たち」展関連 トコトコ美術館 テーマ:かがみ	4月23日(土)、24日(日)	4	3歳~6歳 +保護者	各回 5組
2	「生誕100年 朝倉摂」展関連 トコトコ美術館 テーマ:えのぐ	未定	4	3歳~6歳 +保護者	各回 5組
3	「生誕100年 朝倉摂」展関連 拡大!美術館 テーマ:えのぐ	未定	2	小学生	各回 10名
4	「日本の中のエドゥアール・マネ」展(仮称)関連 トコトコ美術館 テーマ:マネのまね	未定	4	3歳~6歳 +保護者	各回 5組
5	「日本の中のエドゥアール・マネ」展(仮称)関連 拡大!美術館 テーマ:マネのまね	未定	2	小学生	各回 10名
6	「日本の中のエドゥアール・マネ」展(仮称)関連 あかちゃんと家族の鑑賞会	未定	2	0~2歳の 赤ちゃんと その家族	各回 10名
7	「冬のコレクション」展(仮称)関連 あかちゃんと家族の鑑賞会	未定	2	0~2歳の 赤ちゃんと その家族	各回 10名

講演会など

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	「生誕100年 朝倉摂」展関連 講演会	未定	2	中学生以上	30~ 40名
2	「日本の中のエドゥアール・マネ」展(仮称)関連 講演会	未定	1	中学生以上	30~ 40名
3	「吉野石膏コレクション」展(仮称)関連 講演会	未定	1	中学生以上	30~ 40名

ミュージアムコンサート・ライブパフォーマンス等

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	展覧会関連 ミュージアムコンサート・ライブパフォーマンス等	未定	1	中学生以上	20~ 30名

）ネリピラボ(自分の好きな材料で好きなものを作る実験室)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	ネリピラボ	未定	2	小中学生	各15名

）施設等紹介事業(施設や所蔵品から美術館を知るプログラム)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	美術館をつかまえる!?館内探検とフロッタージュ	未定	4	5歳～ 小学2年生	各回 10名
2	所蔵品カードであそぼう!	未定	2	小学生～ 大人	各回 16名
3	おでかけ美術館	未定	1	小学4～6 年生	10名

学校関連事業

）スクールプログラム パンフレットを作成し各学校に配布する。

団体鑑賞	美術館担当者がマナーの説明や展示解説を行い鑑賞のお手伝いをする。
施設見学	各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設を紹介する。
職場体験・訪問	受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝える。
出張プログラム	担当者が学校へ赴きコレクションや開催中の展覧会に関連した授業のお手伝いをする。

）ティーチャーズデイ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中高等学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設ける。

各回ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とする。

令和4年度は5回開催する。

	展覧会名
1	「時代を映す絵画たち」展
2	「生誕100年 朝倉撰」展
3	「日本の中のエドゥアール・マネ」展(仮称)
4	「冬のコレクション」展(仮称)
5	「吉野石膏コレクション」展(仮称)

2 令和3年度 事業報告(中間)

(1) 展覧会事業

令和3年度 展覧会事業日程および観覧者数

(ア) 企画展

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
7月25日(日) ～9月12日(日)	「没後20年 まるごと馬場のぼる」展 — 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ! —	43	19,350 (450)	28,739 (668)	148.5%
9月23日(木・祝) ～11月14日(日)	「ピーター・シスの闇と夢」展	46	16,100 (350)	11,296 (246)	70.2%
2月6日(日) ～3月27日(日)	「生誕110年 香月泰男」展	43	8,600 (200)	8,600 (200) (見込)	100.0%
	合 計	132	44,050 (334)	48,635 (368) (見込)	110.4%
	前年度	116	40,500 (349)	29,145 (251)	前年度比 166.9%

(イ) コレクション展

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
6月1日(火) ～6月20日(日)※	「8つの意表」展 ～ 絵を描く、絵に描く、画家たちのキセキ ～	18	1,800 (100)	1,551 (86)	86.2%
11月23日(火・祝) ～1月30日(日)	「収蔵作品による 小林清親」展 【増補】— サプリメント —	55	6,600 (120)	7,055 (128)	106.9%
	合 計	73	8,400 (115)	8,606 (118)	102.5%
	前年度	116	19,590 (169)	10,372 (89)	前年度比 83.0%

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により会期を変更
当初予定 会期:4月30日(金)～6月20日(日) 開催日数:45日

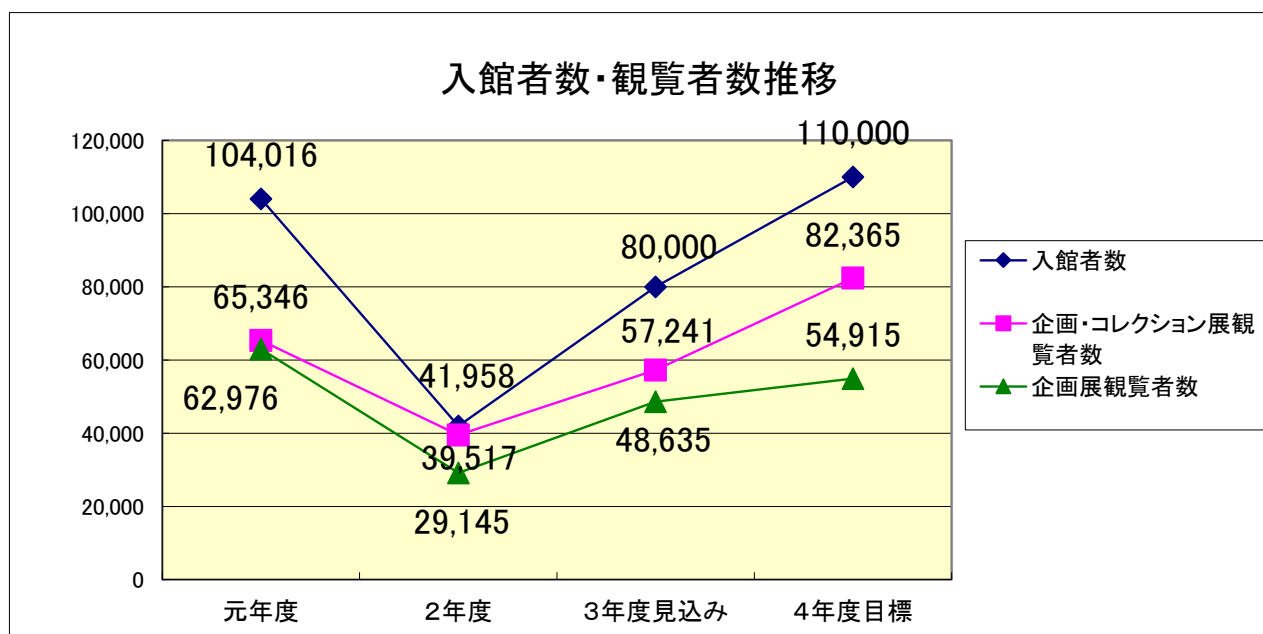
企画展・コレクション展観覧者数比較	2年度	3年度	前年度比
	39,517	57,241 (見込)	144.9%

(ウ) 各種展覧会

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者実数 (1日当り)	
7月2日(金) ～7月11日(日)	第67回練馬区美術家協会展	9	1,163	
12月18日(土) ～12月26日(日)	第53回練馬区民美術展	8	1,991	
1月15日(土) ～1月19日(水)	練馬区中学校生徒作品展	0	中止	
1月22日(土) ～1月27日(木)	練馬区小学校連合同工展	0	中止	
1月29日(土) ～1月30日(日)	練馬区小中学校連合書きぞめ展	0	中止	
合 計		17	3,154 (186)	前年度比 196.8%
前年度		8	1,603 (200)	

(エ) 入館者数

入館者数比較	2年度	3年度	前年度比
	41,958	80,000 (見込)	190.7%



(2) 美術作品の収集事業

美術作品の収蔵状況

(令和3年3月31日現在)

年度	日本画		洋画		版画		工芸		書		彫刻・立体		その他		計		合計
	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	
S59	6		9	1			1	2							16	3	19
60	1	1	5	1		1				1					6	4	10
61		7	14	221	14	28							317	28	573	601	
62	3	1	32	16	9	1						1	1	45	19	64	
63	2	1	15	1	12										29	2	31
H1	2		5	48											7	48	55
2	4	1	19	29	4	1									27	31	58
3	2	1	14	13											16	14	30
4	2	1	12	10	18	9									32	20	52
5	2		1	2											3	2	5
6	1	1	15	7		1					1				17	9	26
7	2	4	4	3		1						1			6	9	15
8	1	2	2	9	5	1									8	12	20
9			12	2	1	46									13	48	61
10	3	4	12	21											15	25	40
11		4	12	5		134									12	143	155
12		8		11											0	19	19
13				13											0	13	13
14		29		13											0	42	42
15		1	6	8	12	77									18	86	104
16		65		6											0	71	71
17		6		20											0	26	26
18		30		121		97								8	0	256	256
19		17		40				5				7		7	0	76	76
20		8		31		21									0	60	60
21		8		44		98						13			0	163	163
22		11		168		9								3	0	191	191
23		8		13								1		123	0	145	145
24		32		10		33									0	75	75
25															0	0	0
26		13	1	422		215						22		2084	1	2756	2757
27		5		97		112		25						18	0	257	257
28		25		22											0	47	47
29															0	0	0
30		5		11		25								15	0	56	56
R1		1		2				16				3		28	0	50	50
2		1		12		1						17		6	0	37	37
合計	31	301	190	1453	75	911	1	48	0	1	1	64	1	2610	299	5388	5687

令和3年3月31日現在
寄託作品 1,900点

購入・寄贈・寄託計 7,587点

(3)令和3年度 広報活動と反響

8つの意表展

令和3年6月1日～6月20日（当初会期4月30日～6月20日）

<p><新聞></p>	
<p>📄記事</p>	<p>📄一覧</p>
<p>なし</p>	<p>毎日新聞 4月23日、30日 5月7日、14日、21日、28日 6月4日、11日、18日 朝日新聞 4月27日 夕刊 東京新聞 5月5日 朝刊 新美術新聞 4月26日 東洋経済日報 4月30日</p>
<p><雑誌></p>	
<p>トーキングヘッズ叢書 No86 4月28日</p>	
<p><会員誌、フリーペーパー等></p>	
<p>カンフェティ Vol.196 4月5日 東京かわら版 5月28日</p>	
<p><WEB></p>	
<p>OBIKAKE アートアジェンダ ジーエーピー Share Art Tokyo Live & Exhibits MIRAI～ちょっと先のミライを探しに行こう インターネットミュージアム 個展なび artscape 今見られる全国のおすすめ展覧会 100</p>	
<p><その他></p>	
<p>ねりま区報 4月21日号 ねりまほっとライン 貫井図書館だより R3.5月号 (Vol148) 練馬区公式ツイッター</p>	

馬場のぼる展

令和3年7月25日～9月12日

<p><新聞></p> <p>📄記事</p> <p>河北新報 8月29日</p> <p>朝日新聞夕刊 8月30日</p> <p>朝日小学生新聞 8月4日</p> <p>東京新聞 9月1日</p> <p>読売新聞 9月3日</p> <p>読売新聞 6月28日</p> <p>東武よみうり新聞 7月13日</p> <p>タブロイド新聞「はいから est」7月19日</p> <p>東奥日報 7月21日</p> <p>陸奥新報 7月25日</p> <p>毎日新聞 7月23日</p> <p>東洋経済日報 8月6日</p> <p>しんぶん赤旗 8月20日</p>	
<p>📄一覧</p> <p>朝日新聞 金曜夕刊マリオン欄</p> <p>日本経済新聞夕刊 8月5日</p>	
<p><雑誌></p> <p>週刊大衆 5月17日</p> <p>月刊MOE 7月2日、8月3日</p> <p>美術屋百兵衛 7月15日</p> <p>anan 7月28日</p> <p>月刊「美術の窓」 7月20日</p> <p>懸賞なび 7月21日</p> <p>アートコレクターズ 7月26日</p> <p>anan 8月4日</p> <p>oz マガジン 8月11日</p> <p>BRUTUS 9月1日</p>	
<p><会員誌、フリーペーパー等></p> <p>月刊Kacce 6月1日</p> <p>月刊モルゲン 6月2日</p> <p>カンフェティ 6月7日</p> <p>asacoco 6月17日</p> <p>東京かわら版 6月28日</p> <p>定年時代 7月5日</p> <p>ZENBI 7月15日</p> <p>季刊誌「はいから」 7月1日</p> <p>ぼる新宿ニュース7月号</p> <p>こどもの図書館 8月10日</p>	
<p><WEB></p> <p>美術展ナビ(読売新聞)</p> <p>ジーエーピーHP</p> <p>OBIKAKE</p> <p>アートアジェンダ</p> <p>MIRAI～ちょっと先のミライを探しに行こう</p> <p>シェア・アート</p> <p>Tokyo Live&Exhibits</p> <p>ギャラリーガイドネット</p> <p>個展なび</p> <p>kodomoe ウェブサイト</p> <p>アート情報サイト「hibiA」</p> <p>子どもとおでかけ情報サイト「いこーよ」/「いこれぽ」</p> <p>ぴあアプリ</p> <p>Club off Alliance(クラブ オフ アライアンス)</p> <p>artscape</p> <p>Fasu (ふあす)</p> <p>日本美術倶楽部</p>	

<その他>

NHK (テレビ) おはよう日本 7月16日
ゆうがた5 (調布エフエム放送) 7月13日
共同通信 (地方紙向け記事配信) 7月16日
朝日こども新聞 LINE ニュース
J-WAVE (FM ラジオ) 8月24日
ねりま区報 7月21日号
ねりまほっとライン 7月・8月
練馬区公式 Facebook
練馬区ホームページ


<広告>

京王電鉄駅貼り広告 (新宿駅、明大前駅)
Instagram、Facebook、Twitter 広告


ピーター・シス展

令和3年9月23日～11月14日

<新聞>

 記事

陸奥新報 9月19日
毎日新聞 10月4日

 一覧

読売新聞
朝日新聞夕刊 8月27日
東洋経済日報 9月10日
東京新聞 9月15日
朝日新聞夕刊 9月21日
毎日新聞 10月4日

<雑誌>

月刊クーヨン 10月号
懸賞なび 10月号
月刊MOE 12月号
東京かわら版 9月号
GAMO NEES
anan 9月22日
装苑 11月号
GINZA 11月号
週刊大衆 10月18日

<会員誌、フリーペーパー等>

月刊Kacce 9月号
カンフェティ 9月号

<WEB>

アートアジェンダ	Numero. jp
G-Call	ウェブ版美術手帖
アート情報サイト「hibiA」	美術展ナビ
MIRAI～ちょっと先のミライを探しに行こう	青い日記帳
株式会社 ShareArt	やまねこ翻訳クラブ HP
Quintessentially News Letter	あるくあるける MAP&NEWS
個展なび	ぴあポイントサイト
ぴあアプリ	Web 太陽
美術手帖	FASHION PRESS
Tokyo Live&Exhibits	コンフォルトウェブマガジン
美術館情報サイト OBIKAKE	
インターネットミュージアム	
アートスティッカー	
スフマート	
星の王子さまミュージアムツイッター	

<その他>



ぱる新宿ニュース
博物館研究 9月号
ねりま区報 9月1日号
ねりまほっとライン 9月・10月
練馬区役所庁舎内等モニター広告 10月
練馬区公式 Facebook
練馬区ホームページ
JCOM つながる News 10月28日

<広告>

京王電鉄駅貼り広告（新宿駅、明大前駅、吉祥寺）
Instagram、Facebook、Twitter 広告

小林清親展

令和3年11月23日～令和4年1月30日

<p><新聞></p> <p> 記事</p> <p>朝日新聞朝刊 1月12日</p>	<p> 一覧</p> <p>毎日新聞 11月19日から毎週金曜日 朝日新聞夕刊 11月30日 産経新聞 1月14日</p>
<p><雑誌></p> <p>和楽 12・1月号 モストリー・クラシック</p>	<p>月刊絵手紙 1月号 月刊ギャラリー</p>
<p><WEB></p> <p>美術展ナビ Fashion Press アートアジェンダ 個展なび MIRAI～ちょっと先のミライを探しに行こう 北斎今昔 全国浮世絵展カレンダー スフマート 美じょん新報</p>	<p>インターネットミュージアム Tokyo Live& Exhibits 今見られる全国のおすすめ展覧会 100 ウェブ版美術手帖 スフマート あるくあるける MAP&NEWS 美術屋百兵衛</p>
<p><その他></p> <p>ねりま区報 11月1日号、11月21日号 ねりまほっとライン 11月16日～30日 練馬区公式 Facebook 練馬区ホームページ 貫井図書館・図書館だより 貫井図書館・美術パスファインダー 練馬区-学びと文化の情報サイト- J:COM「つながる News」 12月2日放送</p>	

(4) 新型コロナウイルス感染症対策

1 来館者の安全確保体制

来館前の検温実施を要請し、来館自粛を求める条件をホームページ等で周知する。

ア 37.5 以上の発熱があった場合

イ 咳・咽頭痛などの症状がある場合

館内滞在時間を1時間から1時間30分程度とすることを依頼する。

館内での検温、咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指消毒を要請する。

上記 ~ について館内入口に掲示する。

貸出物(車いす、ワークショップ時の道具、アンケート用筆記具等)は消毒を行い貸し出す。

観覧中に感染が疑われる体調不良者が発生した場合には、あらかじめ準備した他の来館者から隔離できるスペースでの休憩を促し、救急要請する。

封筒に入れたマスクを用意し、着用していない来館者に受付・監視職員が声かけ、配付する。

ワークショップや講演会等の会場における身体的距離を確保する。

2 スタッフの安全確保体制

スタッフは就業前に検温する。

発熱のあるスタッフには医療機関の受診を促し、診断結果を確認する。

下記の症状に該当する場合は自宅待機とする。

咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻づまり、味覚・嗅覚障害、目の痛みや角膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、吐き気・嘔吐

咳エチケット、マスクの着用、手洗い・手指の消毒を徹底する。

接客対応には、マスク着用・アクリル板での遮断、フェイスシールドの着用で飛沫感染を防ぐ。

現金やチケットのやりとりにはトレーを使用する。

3 館内管理

館内

ア トイレ等の共有部分および不特定多数の人が触れる場所を頻繁に清掃

イ 入口等適切な場所に手指消毒液を設置

ウ 清掃スタッフのマスク、手袋着用の徹底、清掃後の手洗いの徹底

エ トイレに手洗いを促す掲示

オ ハンドドライヤーの使用中止

カ 過密を避けるため、エレベーターの利用は階段昇降が困難な方に限定

ロビー

- ア 対人距離を確保するため、フロアマーカーを設置
(チケット購入の列・トイレの列・グッズ購入の列)
- イ ソファは間隔を空けて座るよう、座れない場所に表示
テーブル・椅子は間引きして配置

受付カウンター

- ア アクリル板の設置
- イ チケットおよび現金受け渡しにトレーの使用

展示室

- ア 監視員のフェイスシールドおよび手袋の着用
 - イ 観覧者の入室時のチケット確認の緩和
 - ウ 職員の定期的な見回りによる過密状況のチェック
- ## グッズ等販売カウンター
- ア 受付カウンターの過密を防ぐため、展示室や休憩コーナー等でグッズ等を販売
 - イ 販売カウンター等にアクリルボード等を設置

4 混雑時の入場制限の実施

展示室...約 260 人

1 m の対人距離をとれる人数 524 m^2 (展示室全体) \div $2 \text{ m}^2=262$ 人

ロビー...約 40 人

5 広報・周知

ホームページ・館内掲示への記載により来館時の注意事項を周知する。

ア 来館前の検温実施の要請、来館自粛を求める条件の記載

・37.5 以上の発熱があった場合

・咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻づまり、味覚・嗅覚障害、

目の痛みや角膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、吐き気・嘔吐の症状がある場合

イ 館内での検温、咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指消毒の要請の記載

ウ 身体的距離の確保徹底の記載

エ 入場制限についての記載

オ 滞在時間の目安を 1 時間～ 1 時間半とする要請の記載

カ 展示室内での会話を控える要請の記載

キ 作品の前で長時間立ち止まらない要請の記載

Twitter での案内を行う。

ア 来館時の注意事項

イ 随時の混雑状況

ウ 待ち時間の目安

エ 空いている時間帯、混んでいる時間帯

6 混雑時の対応

ホームページ、Twitter で混雑状況を発信する。

入場制限を行う場合は、未利用のギャラリー等を入場待ちスペースとして使用する。

誘導スタッフを配置する。

ア 入場者の整理、制限、誘導等について、専門スタッフを配置

イ 混雑状況により、必要であれば誘導スタッフを増員